

取組目的

●災害教訓の伝承に関する地図・測量分野からの貢献として、過去の自然災害に関する石碑やモニュメントなどを地形図等に掲載することにより、過去の自然災害の教訓を地域の方々に適切にお伝えするとともに、教訓を踏まえた的確な防災行動による被害の軽減を目指す。

＜過去の自然災害に関する石碑の事例＞－西日本豪雨被災地より－

広島県坂町小屋浦地区の事例

- 広島県坂町小屋浦地区では、111年前(明治40年7月)に土砂災害があった旨の石碑が設置されている。
- 避難勧告を受けた避難率は、町全体の半分程度であった。



広島県坂町小屋浦地区で、行方不明者の捜索に当たる大阪府警広域緊急援助隊。

撮影：大阪府警察



水害碑
(広島県坂町小屋浦地区)

＜避難勧告が出されて2時間後までの避難率＞
坂町全体:3.9% 小屋浦地区:1.9%

岡山県倉敷市真備地区の事例

- 岡山県真備町でも、125年前(明治26年)の供養塔が源福寺に設置されていた。



岡山県倉敷市真備町、源福寺

撮影：中国地方整備局岡山河川事務所

125年前
供養塔の
高さまで浸水



供養塔(源福寺境内)
(岡山県倉敷市真備町)

撮影：中国地方整備局岡山河川事務所

○明治26年(1893年)に起きた水害で、真備町は200人以上が犠牲。